

平成 30 年度第 5 回古賀市スポーツ推進審議会【地域部会】 会議録
(要約筆記)

(事務局)

・地域部会で協議をお願いした取り組み 4 分野あったが、委員の皆様の意見を参考にし「地域総合型スポーツクラブの基盤づくり」を外した。東京 2020 オリンピック・パラリンピック、2019 年ラグビーワールドカップを活用した地域活性は部会協議していないが事務局提案で示している。

(座長)

・前回発表した内容に照らし、素案が部会の意とすることに沿っているか意見を出して欲しい
・30 ページより気が付いたことなど出して欲しい。
・「地域スポーツ」の表現が気になる。
・「地域総合型スポーツ活用」は、すでに実在する表現になっている

(委員)

・「地域総合型スポーツクラブ」を創るのであれば、他の部会の中でも取り上げられる必要があると思う。そうでなく古賀市独自のスポーツを担う団体もしくはクラブを考えているのであれば、誤解を招く表現はしない方がよい。

(座長)

・文字面だけがひとり歩きするのは良くないと思う。

(委員)

・「地域総合型スポーツクラブ」についてはスポーツを取り巻く現状と課題に、「今後も検討する」と表記している。

(委員)

・話を進めていく中で、この地域総合型スポーツクラブを推進していくのかを話し合い古賀市としては日体協や国が推進する地域総合型スポーツクラブではなく、古賀市独自の地域のスポーツを担う組織をイメージしていこうとする話だったと思う。その中で海モデル、山モデルをイメージしていく形だった。それが機能していく形の中で地域総合型スポーツクラブになっていくかもしれないが、そのモデルも起きていない。モデルがどこに当たるのか、地域のスポーツの活動の活性が図られていく中で、自然にその方向に発展すると可能性はあると思う。

(委員)

・地域総合型は 2020 前からの取り組みで、2020 が終わった後は日体協が全国津々浦々に進めていくと思う。日体協が推奨している事業

(座長)

・地域で、多種多様なスポーツを担うような組織があった方がよいのはわかる。それをどう表現し文字にするかだと思う。

(委員)

・古賀西校区コミュニティのスポーツ部会は地域総合型スポーツクラブを目指しているが人材が無理なので体協の中に位置づけて事務局配置をして、古賀市全体の校区コミュニティのスポーツを担っていったらと思っている。

(座長)

・地域総合型スポーツクラブの名称はさておき、なにかしら地域においてスポーツの活動を推進する組織が必要であるが的確な名称が浮かばない。と発表したい。

(事務局)

・オリンピック・パラリンピックについては話し合ができていないが、内容に対し意見をお願いしたい。

(座長)

- ・ルーマニアの件について 2020 年までは続くだろうが、地域の活性につながると国際交流や文化にはなってもスポーツをツールとした活性につながるのかなと疑問には思った。

(委員)

- ・他の自治体では国際交流は多く宗像市は韓国と中学校の交流をしている。
- ・2020 が終わっても国際交流を継続していくことは大事だと思う。

(座長)

- ・スポーツ活動として国際交流をしていかなないと、この計画に書くべきではない。

(事務局)

- ・古賀市の現状で国際スポーツができる施設がないが国際交流の方法はあるのだろうか。

(委員)

- ・クロスパルコがアリーナは使える。
- ・ルーマニアキャンプ誘致に関する部分だけが具体的で、あとは、ぼやとなっている。
- ・2020 を契機とした一つの取り組みがルーマニアキャンプ誘致になるのは良いので①などの表記で、ひとつの例としては良いが、これでは、短期が終わってもルーマニアと何か関係が続く様に思うし、契機となると、他の国などにも次々、受け入れていくのかと思う。
- ・県はして欲しいのだろうが、受け入れには難しさがあるし、オリンピックだから行っていると思う。
- ・ルーマニア誘致から蓄えたノウハウを活かし、東南アジアなど近隣の国のスポーツ交流やスポーツを通じた交流を考えるのであればできると思う。

(座長)

- ・オリンピックと言う大きな目標があるからできているが、なくなると多くの予算が必要になる。時間や文化の違いなど軋轢や様々なものが入ってくる。そのための覚悟は要るし乗り切れるのかと思う。
- ・地域の活性化には入れるのは難しく、地域で受け入れることではないと思う。

(委員)

- ・オリンピック・パラリンピックは、それぞれの部会で話し合ったことを網羅しても、違いがある。

(座長)

- ・行政の思いがあるため、地域に書くと全く違うものになる。

(事務局)

- ・次回委員会で数値目標を出すようにしている。この件について意見が欲しい。

(座長)

- ・地域における活性や人材活用の度合い、地域の達成度をどこに設定し、どうみるかは非常に難しい。

(委員)

- ・校区コミュニティ、行政区、それぞれ特徴があり従来の運動会など実施している地域もあるし新しいスポーツに取り組んでいる地域もあり様々である。5年後にみえるものの設定は難しい。
- ・体力測定を公民館ごとにする。

(委員)

- ・健康に関する人材が部会に入っていないので、何を指標にするのかは難しい。地域のスポーツ計画にあるイベント参加者を率にしてみるのか、日常的なスポーツ実施率でみるのかを数値目標で出すことはあると思うが、何をみるかだと思う。
- ・人材育成は事業回数や参加数でみることができのかもしれない。
- ・スポーツ実施率などは、子どもや成人で出すだろうから地域としてはスポーツ開催数などになるかと思うが、それぞれ地域は一杯で実施しているのに、それを増やすことはできない。

(座長)

- ・回数を増やすのではなく、いかにコラボするかを考える。

(委員)

- ・地域のスポーツと健康づくり事業取り組みの事業数を増やすなど是可以する可能性がある。地域の運動会などに健康分野の方々の連携を行ったりブースをくっつけていくなどする。